



# びろうじま

門川町立門川小学校  
令和3年5月25日(火)

【目標】 自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子どもの育成  
【副題】 知恵いっぱい 心いっぱい 汗いっぱい



## よりよい人間関係を築くために…

門川小では、毎朝「おはようございます」の声、校門から玄関周辺においていくつも重なり合って聞こえてきます。これは、上学年の子ども達の朝のボランティア活動における挨拶運動によるものです。私が本校に赴任した昨年度4月と比べると、全体的に挨拶をする子どもが多くなっているようです。お辞儀をして挨拶ができている子や「挨拶をすることは気持ちがいい」と考える子もいます。

また、ボランティア活動は、挨拶運動ではありません。玄関前、運動場など様々な箇所で、数名ごとの集団に分かれ、互いに協力し合って除草や枯葉集め等の作業が展開しています。子ども達の「よりよい人間関係を築く力」が発揮されている瞬間です。



一方、本校では、清掃の際に縦割り班活動も行っています。活動を通して、「よりよい人間関係を築く力」やリーダーシップ、フォロアーシップを育てるためです。1年生から6年生が一つのチームになって、担当した場所をきれいにしています。子ども達は、高学年の班長の指示で役割分担をして、自分の役割に責任をもって黙々と取り組んでいます。先生が指示するより班長の指示の方が自主的に頑張ることができる子どももいるようです。活動を通して、子ども達は、リーダーはリーダーとして、そして、班の一員としての自覚をもち、学校の活力を培う一人となる訳です。それゆえ、達成感や充実感がもて、自己肯定感の向上

につながります。このような縦のつながりと、それによる協働がやがて地域へと発展し、地域社会に参画し、社会を形成する人材となってほしいと考えます。

さて、近年、学校の話で「キャリア教育」という言葉を聞かれることがあるかと思いますが。その「キャリア教育」で育みたい能力の一つに「よりよい人間関係を築く力」があります。つまり、コミュニケーション能力と言われるものです。大人社会では、様々な場面で必要とされるものです。そして、コミュニケーション力は、例えば、次にあげる能力の土台となります。

- 人の考えや立場を理解し、相手の意見をよく聞き、理解する力
- 自分の考えを相手に正しく伝える力やそれをもとに交渉する力
- 自分の立場や状況をしっかりと認識したり、振り返って評価したりする力
- 自分の役割を果たしつつ、人と協力したり協働したりできる力、リーダーシップ

はじめに紹介した挨拶運動や縦割り班活動は、単なる場面や行為ではなく、まさにコミュニケーション力の源であり、キャリア教育の根幹を為すものであると言えます。コロナの感染症対策が叫ばれる中であって、とかく「人との協働経験」は敬遠されがちですが、新しい生活様式の中であるからこそ、これらの活動の日々の積み上げは大切であると考えます。

また、授業においては、コミュニケーション力を高める一環として、対話的な学習や自分の思いや考えを表現する（発表）の機会を感染症対策に留意しながら設定し、言語活動を充実させるようにしています。これらのような活動や授業を充実させつつ、子ども達が先生や友達と共に学ぶことができ、よりよい人間関係を築く力を身に付ける場を大切にしていきたいと考えます。どうぞ、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。